

野菜栽培テキスト

(追加号)

名古屋市緑政土木局

も く じ

タマネギ (ユリ科)	1
ジャガイモ(ナス科)	4
ソラマメ (マメ科)	8
エンドウ (マメ科)	10

タマネギ（ユリ科） 連作可

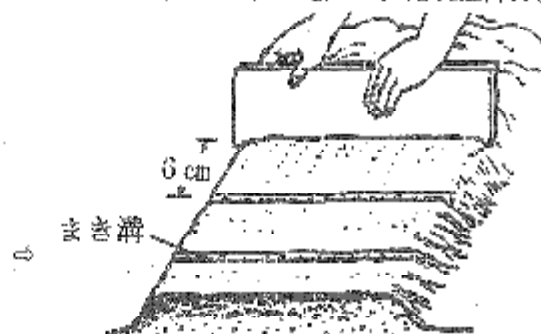
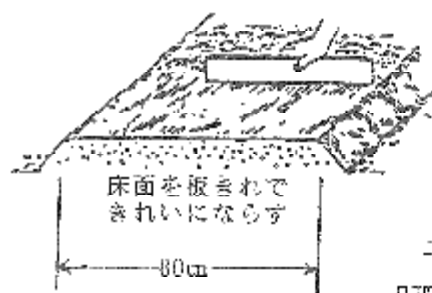
月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	おもな品種
蒔地 栽培												早生種 錦秋、七宝 早生二号 ソニックなど 中生種 まつき、アボロ 七宝廿70 知多3号など 晩生種 もみじ8号 赤色系品種 湘南レッド など
作業	①苗床の準備 ②タネまき ③間引き・追肥 ④畑の準備 ⑤定植 ⑥追肥 ⑦収穫											

① 苗床の準備



- (1) タネまきの2週間前：苦土石灰150 g/㎡
- (2) タネまきの1週間前：堆肥2 kg/㎡、化成肥料60 g/㎡

② タネまき



土をよく碎き6 cmの間隔でまき溝をつくり、このまき溝へ1 cmの間隔でタネをすじまきし、タネがみえなくなる程度にふるいで土をかける。板きれなどでタネを鎮圧してから細かく切ったワラや枯れ草をかけて灌水をする。

③ 間引き・追肥

本葉2枚のころ、株間2 cmに間引き、化成肥料50 g/㎡を施す。

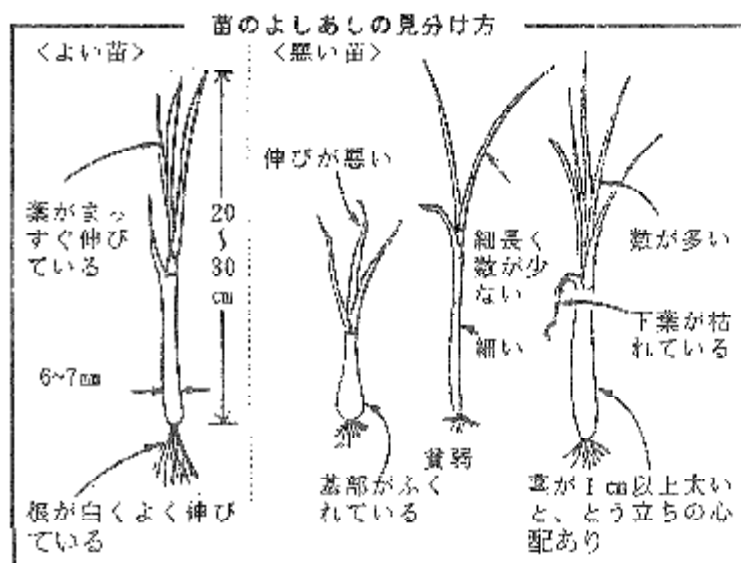
細かい土か砂をふるいで1 cm程度かける。

④ 畑の準備

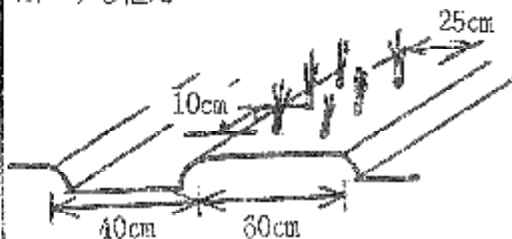
- (1) 定植の2週間前：苦土石灰120 g/㎡

- (2) 定植の1週間前：堆肥1 kg/㎡、化成肥料100 g/㎡、過リン酸石灰30 g/㎡

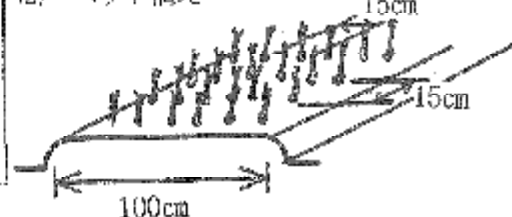
⑤ 定 植



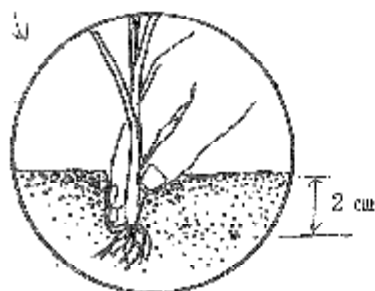
(1) すじ植え



(2) ベッド植え



マルチをしないときの植え方



根をできるだけ下方へ入れる
ように指をそろえて押し込む

ベッドの全面の黒色のポリマルチをすると雑草を防止し、苗の生育がやや早くなる。

マルチしたときの植え方

先の尖った太さ13mmくらいの棒をマルチの上から深さ7~8cmまで突き刺し、その穴に1本ずつタマネギの苗を挿していく。根ははみ出ても構わない。この後、マルチの上から灌水する。

⑥ 追 肥

うねの表面を中耕し、雑草を取り除いておく。

(1) 1回目：定植後20日目に、すじ間に化成肥料40g/m²を施し覆土する。

(2) 2回目：3月上旬ごろ、すじ間に化成肥料40g/m²を施し、株元まで十分に土寄せする。

マルチ栽培では、肥料の流亡が少ないので3月上旬ごろマルチの上に化成肥料40g/m²をばらまき、雨によって穴から流入させる。

⑦ 収 穫



つるすばあい 5～8割ぐらいの本数の地上部が倒れたとき、天気の良い日を見計らって、いっせいに抜き取る
すぐ利用する場合 太ったものから順次抜き取って利用する。残された球がよく太る

抜き取ったら、そのまま加に並べて2～3日乾かす



5球ぐらいずつ両ね風とおしのよい場所へふり分けてつるす

◆病害虫

病気：べと病、タンソ病、コクハン病など

害虫：スリップス、タマネギウジ、ケラなど

長期間腐らせない方法

- ①晩生品種を選ぶ
- ②追肥は3月上旬で終える
- ③早めに収穫する（地上部が5割ぐらい倒れたとき）
- ④1球300g以下の小さいものを貯蔵にまわす
（大きいものは腐りやすいので、早めに食べる）

ジャガイモ（ナス科） 連作不可（3年以上）

月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	おもな品種
春 作												男爵 農林一 マークイーン など
作 業	①畑の準備 ②タネイモの植付け ③芽かき ④追肥・土寄せ ⑤収穫											
秋 作												農林一 など
作 業	① ② ③④ ⑤											

① 畑 の 準 備



植付けの2週間前：苦土石灰50g/m²

② タネイモの植付け

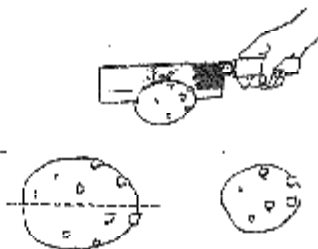
(1) タネイモの準備



タネイモは上部の方の芽が少し伸び始めたものがいちばんよい。タネイモ用として売られているものが最適。

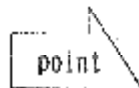


100g以上のイモは四つ切りに



60～90gぐらいのイモは二つ切りに、それより小さいイモはそのまま。伸びたしている芽が、どの切片にもつくように包丁で切断する

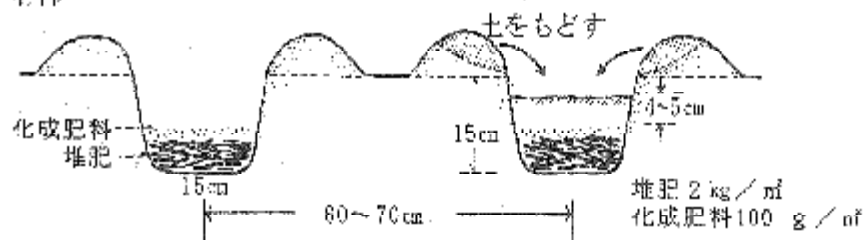
切断2～3日後、切り口が乾いてから植付ける。



同じナス科のトマトを近くに作らない。
ジャガイモに発生した疫病が移るため。

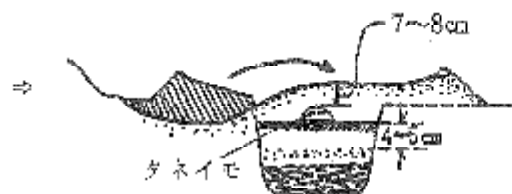
(2) 種付け

・春作



— 南 —

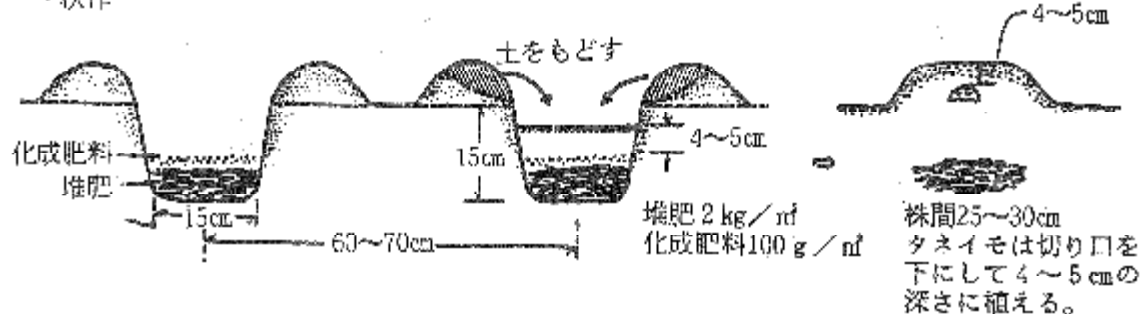
北 —



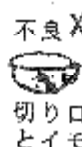
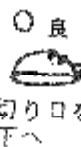
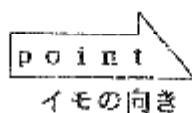
株間25~30cm

タネイモは切り口を下にして7~8cm土をかぶせる

・秋作



株間25~30cm
タネイモは切り口を
下にして4~5cmの
深さに植える。



③ 芽かき



残す芽の根元を指で
押さえておいて芽か
きをする



草丈が8~10cmぐらいのときに勢いのよい芽を2本残して他は取り除く。

④ 追肥・土寄せ

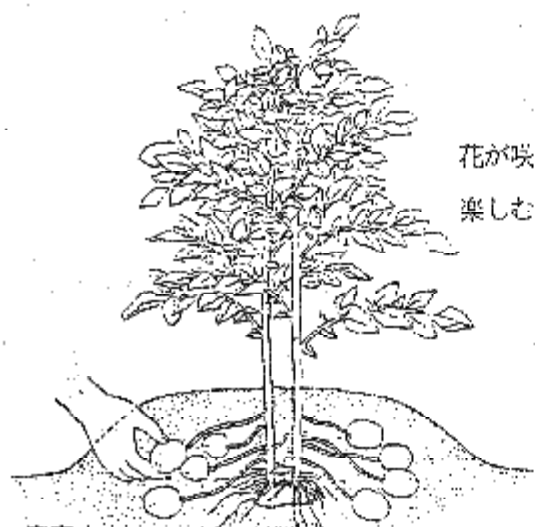
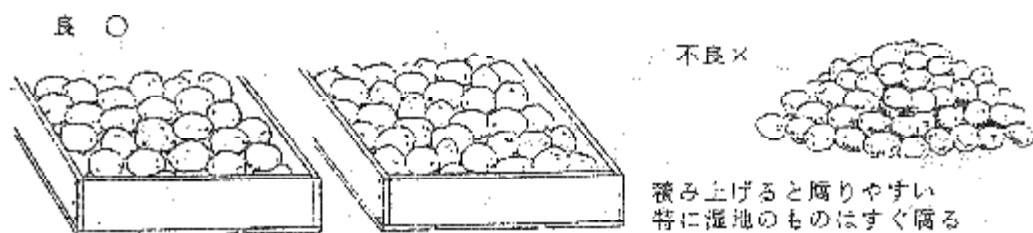


(1) 1回目：芽が10cmほど伸びたころ、化成肥料50g/㎡をうねの肩に施し、うね間の土を浅く耕し、3cmほど株元にかける。

(2) 2回目：蕾が出たころ、1回目と同様に追肥・土寄せを行なう。

⑤ 収穫

茎葉がやや枯れはじめた頃、2～3日晴天が続いた後掘り上げ、畑で2～3時間乾かしてから収納する。



花が咲いている頃からさぐり掘りして、新ジャガの味を楽しむこともできる。

◆ 病害虫

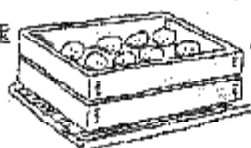
病気：ウィルス病、エキ病、ソウカ病

害虫：アブラムシ、ニジュウヤホシテントウなど

☆ 貯蔵方法

貯蔵適温 2～4℃

イモは重
ねない



風通しのよい
ところに置く

収穫後、陰干ししたのち発泡
スチロール箱に入れる

リンゴ



リンゴを入れて
萌芽を抑制する

穴をあけた
ポリ袋

ソラマメ（マメ科）連作不可（3年以上）

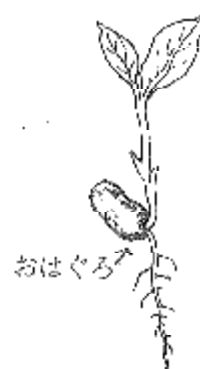
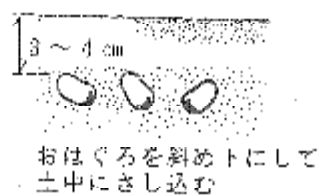
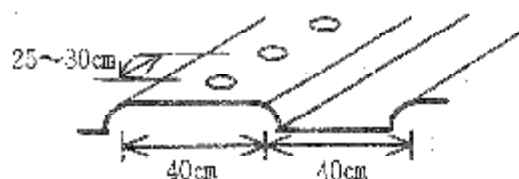
月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	おもな品種
直まき栽培											大粒種 仁徳一寸 お多福 中粒種 早生もろゝめ
作業	① 畑の準備 ② タネまき ③ 追肥 ④ 敷ワラ ⑤ 茎の間引き ⑥ 収穫										

① 畑の準備



- (1) タネまきの2週間前: 苦土石灰200 g/m²
(2) タネまきの1週間前: 堆肥2 kg/m²、化成肥料50 g/m²

② 夕木 浩 郎



1 枚 2 ~ 3 粒

本葉2～3枚のころ間引いて2本立てとする。

(譯註)

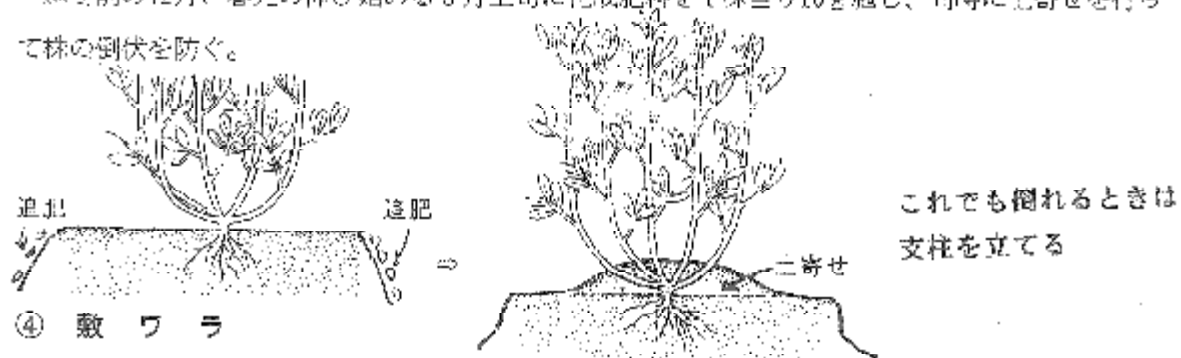


⇒ 本葉2枚の苗（育苗期間17～20日）に仕上げて定植する。

直径 6 ~ 9 cm
1 鉢に 1 粒

③ 追 肥

越冬前の12月と春先の伸び始める3月上旬に化成肥料を1株当たり10g施し、同時に土寄せを行って株の倒伏を防ぐ。



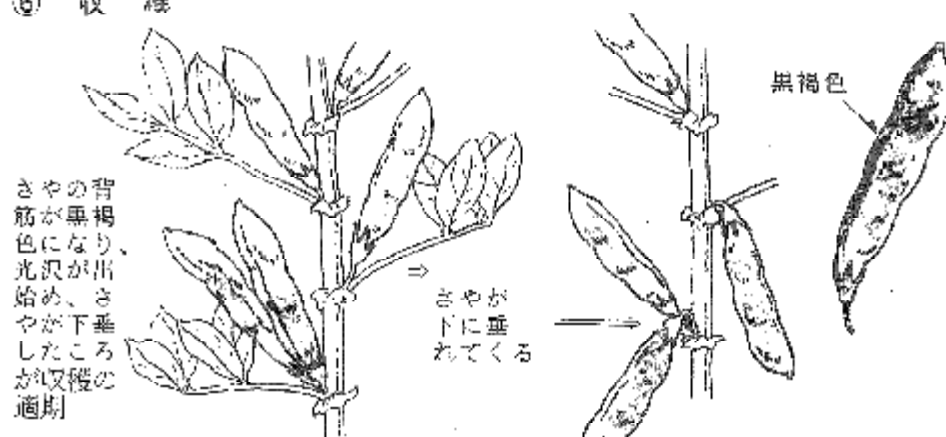
④ 敷ワラ

冬期、寒さと乾燥から株を守るために株元に敷ワラをする。

⑤ 茎の間引き

4月中旬開花盛りとなるが、このころ株元から発生した細長いむだな側枝は切り取って1株5～6本までとする。また土寄せを行って株の倒伏を防ぐ。

⑥ 収 穫



◆ 病害虫

病気：輪紋病、サビ病など

害虫：アブラムシ、ソラマメゾウムシなど

エンドウ（マメ科） 連作不可（4年以上）

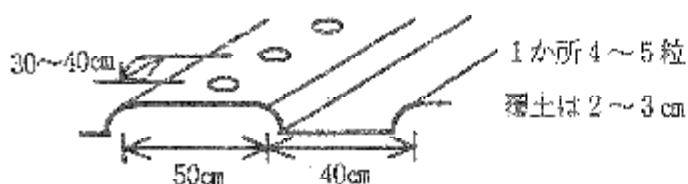
月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	おもな品種
直まき栽培										サヤエンドウ つるあり種 絹さや 豊収 美笹 赤花大さや フランス大さや など スナップエンドウ
作業	①畑の準備 ②タネまき・間引き ③防寒 ④追肥 ⑤支柱立て・誘引 ⑥収穫									

① 畑の準備



- (1) タネまきの2週間前：苦土石灰200 g/m²
- (2) タネまきの1週間前：堆肥2 kg/m²、化成肥料50 g/m²

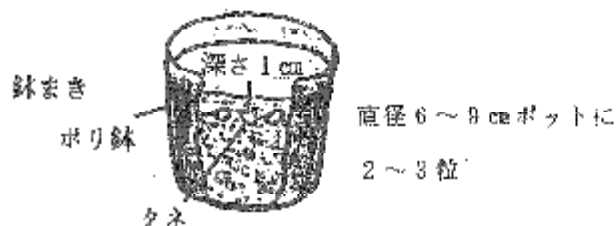
② タネまき・間引き



丈が7~8 cmぐらいのころ
ろれみ合ったところを間
引いて2本立てとする。

参 考

畑の都合で適期にタネまきできない場合は、育苗して本畑へ植える。



③ 防 寒 肥えた畑上

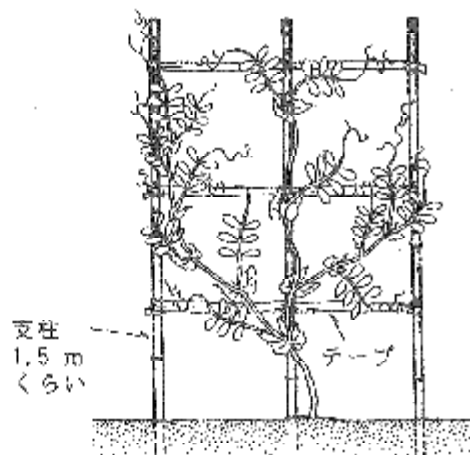
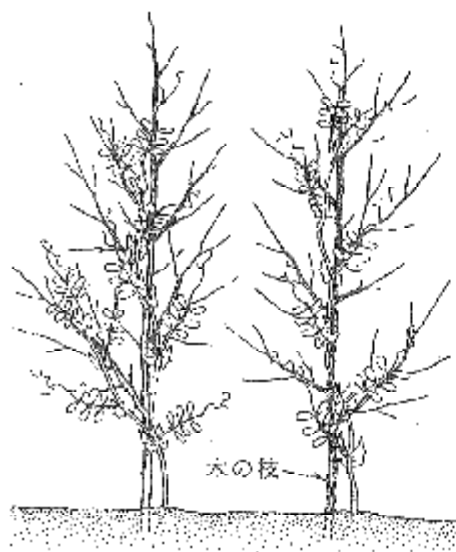
寒さには強いが霜や北風に当てないほうがよいので、北側にワラやササを立てたり、土寄せしたり、株元にモミガラを敷いたりする。

④ 追肥



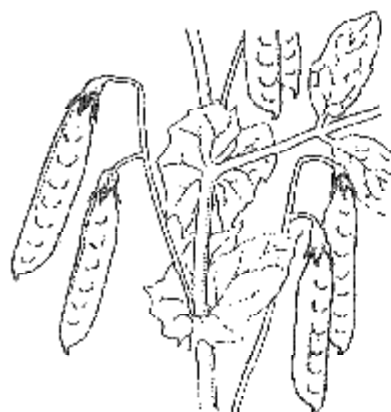
8月上～中旬ごろ、うねの肩のところに化成肥料を50g/m²施し、通路の土を上げてうねを整える。

⑤ 支柱立て・誘引



- ・エンドウの支柱には、分枝の多い木の枝や竹などが好適
- ・木の枝が手にはいらなければ、竹の代わりの支柱にテープを張ってつくる。

⑥ 収穫



サヤエンドウ：さやのなかの実が外部からはんのわずかわかるようになったころが収穫適期

スナップエンドウ：若さやのうちから収穫できるが、実が大きくなってさやの断面が円形になるくらいふくらんだころが収穫適期

◆ 病害虫

病気：ウドンコ病、褐斑病など

害虫：アブラムシ、ハモグリバエなど